

平成21年度 第37回 岐阜県高等学校選抜バスケットボール大会
 兼 第40回 全国高等学校バスケットボール選抜優勝大会県予選会
 大会第6日:平成21年11月1日(日)
 会場:岐阜アリーナ

男子の部

<審判>

準決勝 岐阜総合 93 $\left[\begin{array}{l} 24 - 22 \\ 16 - 16 \\ 23 - 18 \\ 30 - 25 \end{array} \right]$ 81 中津川工 松野瑞穂・棚橋英一

岐阜総合ハーフコートマンツーマン、中津川工ゾーンディフェンスでスタートする。序盤岐阜総合は浅野のジャンプシュート、小西の速攻、山下の3点シュートなどで先手を取り、10点のリードを奪う。対する中津川工は田口の3点シュート、原(和)のドライブ、纈纈のシュートなどで流れを引き戻す。第1ピリオドは岐阜総合が24-22とリードする。

第2ピリオドは岐阜総合が松井 浅野の3点シュートで得点すれば、中津川工は纈纈、今井がミドルシュート、インサイドと頑張りを見せ、互角の展開となる。前半を終了して岐阜総合が40-38と2点リードでハーフタイムを迎える。

後半に入ると、岐阜総合は小西のミドルシュート、松井の3点シュート、山川のジャンプシュートなどで点差を広げ、坂井が終盤ポストからのシュート、リバウンドシュートで頑張りを見せ、7点のリードを奪う。中津川工も田口の3点シュートなどで追い上げを見せるが、相手の激しいディフェンスに苦しみ、思うようにシュートが決まらない。

第4ピリオド、岐阜総合は山川、松井の3点シュートや小西のドライブなどで次第に点差を広げていく。最後までオフェンス、ディフェンスの動きがよく、勢いに乗った岐阜総合が終始リードを保って93-81で勝ち、大会4連覇をかけて決勝へと進んだ。インターハイ出場の中津川工は必死のディフェンスであきらめずに粘りを見せたが、準決勝で涙を飲んだ。(野々村浩二)

準決勝 美濃加茂 103 $\left[\begin{array}{l} 31 - 24 \\ 20 - 15 \\ 23 - 9 \\ 29 - 13 \end{array} \right]$ 61 岐阜農林 室谷伸治・廣瀬卓哉

美濃加茂3-2ゾーン、岐阜農林ハーフコートマンツーマンで始まる。美濃加茂は高橋のゴール下シュート、小園井、安藤のドライブで得点する。さらに途中からディフェンスをハーフコートマンツーマンに変え、激しいチェックからミスを誘い速攻につないで点差を広げてゆく。岐阜農林も曾我のドライブ、3点シュート、小林のシュートで得点し、容易に離されない。第1ピリオド美濃加茂が31-24とリードする。

第2ピリオドに入っても美濃加茂は高橋、中村、林戸が次々にシュートを決めていく。岐阜農林は小島、田中が頑張りを見せるが、小林が4つ目のファウルを犯し、苦しい展開となる。前半は美濃加茂が51-39とリードして折り返す。

第3ピリオド、美濃加茂は中村のジャンプシュート、高橋のゴール下シュート、林戸の速攻でさらに得点していく。岐阜農林は小林がファウルアウトし、攻撃の軸を失ってこのピリオドわずか9点に終わる。

第4ピリオド、美濃加茂は攻撃の手を緩めず、小林の3点シュート、林戸のジャンプシュート、そしてゾーンプレスからの速攻と次々と加点していく。最後は美濃加茂が103-61と大差を付けて勝利し、決勝へと進んだ。岐阜農林も曾我、田中の3点シュートなどで気を吐いたが、相手ディフェンスを攻めきれず敗退した。(吉福 司)

女子の部

<審判>

準決勝 岐阜女子 80 $\left[\begin{array}{l} 12 - 10 \\ 27 - 6 \\ 20 - 20 \\ 21 - 5 \end{array} \right]$ 41 県岐阜商 三浦 潔・名越龍男

両チームともハーフコートマンツーマンでスタート。岐阜女子は相手のディフェンスに苦しみ、ターンオーバーが多く出るが、杉浦がインサイドを制してリードを奪う。県岐阜商も、相手の厳しいディフェンスに苦しみ、松尾、安田の3点シュートは決まるも、単発的な攻撃となる。第1ピリオドは岐阜女子が12-10とリードするロースコアのゲームとなる。

第2ピリオドに入ると、岐阜女子は本来の力を発揮し、積極的に速攻に走り、松原、尾崎の3点シュート、杉浦のゴール下シュートなどで次々と得点をあげ、一気にリードを広げる。県岐阜商は防戦一方となり、得点もわずか6点に終わる。前半は岐阜女子が39-16とリードして折り返す。

第3ピリオドに入ると、岐阜女子は杉浦のポストにボールを集め、インサイドで得点をあげる。対する県岐阜商もディフェンスを3-2ゾーンに切り替えてからリズムが良くなり、ドライブからの合わせのプレーで土屋、吉野、山田がシュートを決める。第3ピリオドは、20-20の互角の戦いとなり、県岐阜商の善戦が光った。

第4ピリオド、岐阜女子はベンチメンバーに切り替えるが、動きのよいディフェンスからボールを奪うと速攻に走り、神山、東方、森澤らがシュートを次々に決めていく。最後は80-41と大差をつけて岐阜女子が勝ち名乗りをあげ、決勝へと進んだ。県岐阜商もディフェンスをよく頑張ったものの、第4ピリオドはわずか5点に終わり、追い上げることができなかった。(野々村浩二)

準決勝 高山西 67 $\left[\begin{array}{l} 20 - 11 \\ 17 - 13 \\ 19 - 19 \\ 11 - 14 \end{array} \right]$ 57 岐阜総合 増田博徳・古田 怜

両チームともオールコート2-2-1ゾーンプレスで仕掛けながらの始まりとなる。高山西は井川のドライブから岩畑、筒井が合わせて得点をあげ、張がオフェンスリバウンドを頑張り得点を伸ばす。岐阜総合は田中の3点シュート、下里の3点シュート、ドライブインで得点をあげるも動きが固く、パスが思うようにつながらない。第1ピリオドは高山西が20-11とリードを奪う。

第2ピリオド、高山西は井川のドライブ、原、張のゴール下、片山の速攻と多彩な攻めを見せ得点を伸ばす。岐阜総合も猪野間、田中のリズムの良い3点シュートや下里、野原の力強いプレーからフリースローを得て追い上げを図るが、点差を縮められない。前半は高山西が37-24とリードして折り返す。

後半に入っても、高山西は朝熊のリードから井川がドライブ、連続3点シュートを次々に決め、原も要所でジャンプシュートを決め、ゲームの主導権をゆずらない。岐阜総合もディフェンスの動きがよくなり、田中、尾関の3点シュート、野原のステップインなどで反撃し、必死で食い下がるも、点差は変わらない。

第4ピリオド、高山西はやや足が止まったものの、朝熊、井川が冷静にゲームコントロールし、相手の追い上げを許さず、67-57で逃げ切り、決勝へと駒を進めた。岐阜総合も下里を中心にオールコート1-2-1-1ゾーンプレスでプレッシャーをかけてボールを奪うと、野原、下里がシュートを決めるが、追い上げきれなかった。(吉福 司)

担当審判より

第1ピリオドのジャンプ・ボールの直後、どちらのチームもボールをコントロールしないうちにヘルド・ボールが宣せられました。その後、最初のジャンパー同士によってジャンプ・ボールでゲームを再開しましたが、これはジャンパーの指定の誤りでした。正しくは、ヘルド・ボールにかかわった2人の選手がジャンパーとなります。(ルールブックp.149を参照)